

# 農業



令和7年5月号

会誌 No. 1730

## 目次

### 巻頭言

地球温暖化と食料生産……………丹下 健 3

### 論壇

環境に優しい畜産技術は……………寺田 文典 4

### 秋期中央農事講演会

ナラティブとしての「多面的機能」は絶滅危惧種か？……………莊林幹太郎 6  
—農業農村の価値が多様化する中であらためて多面的機能を考える—

### 農事功績者座談会

酪農経営を中心に、自社加工乳製品の製造販売・地元農産物直売事業を展開  
……………松原久美・たみえ 22  
現地指導者のコメント……………加藤 満康 29  
意見交換……………30

### 食を楽しむ

おいしさの指標は「パリパリきみ」……………タナカ トウコ 38

### 研究の最前線

ICT・ロボットを活用したスマート農業の今後の展望……………野口 伸 39  
—農業支援サービス事業者が利活用する次世代スマート農業技術—

### 農業・農村の現場から

南相馬市の水稻大規模経営におけるスマート農業の取り組みと課題  
……………宮川 貴光 49

### 世界の農業は今

イタリア・シチリア島から果樹栽培のスマート化を考える……………太田 智彦 55

## 私の経営と志

金沢市 青果仲卸—販売者としての農業との向き合い方—……前田 知宏 61

## 農家の気持ち

有機農業，有機食品加工の取り組み……澤田たみ子 63

## 東京農業大学収穫祭から

有機給食は実現できるのか……福田 誠也 64  
—全国的動向と実施要因の解明—

## 農政情報

## 支会インタビュー

大日本農会栃木支会の紹介……岩淵 至正 69

大日本農会だより…… 70

編集部から…… 70

## 表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産

### 朝来地域のパッチワーク状の景観 (兵庫県朝来市岩津地区)

朝来地域は、兵庫県のほぼ中央に位置する中山間地域で、日本海側気候の影響を受け、冬季には降雨や積雪が多く見られます。こうした自然環境のもと、他地域からの資源導入が難しかった時代より、水稻に加え、野菜や但馬牛の繁殖などを組み合わせた資源循環型農業が築かれてきました。

なかでも伝統野菜である岩津ねぎは、江戸時代後期に生野銀山の鉱山従事者の冬期の食糧確保を目的として栽培が始まり、今日まで山際の畑で代々受け継がれてきました。この資源循環型の農業システムは、自然環境と共存しながら、特別天然記念物のオオサンショウウオやコウノトリ、ウスバシロチョウなどの希少な生物の生息環境を守る役割も果たしています。

また、病害虫の蔓延を防ぐためにほ場を分散させることで、パッチワーク状の美しい景観が形成され、地域の特色となっています。朝来地域の自然、文化、人々の営みが一体となったこの「岩津ねぎを核とした資源循環型農業システム」を、次代へと継承していきます。

(写真および文：朝来市産業振興部農林振興課 大西 真)